



群馬県産夏ごぼうの入荷は7月がピーク 「統一ロゴマーク」でJA佐波伊勢崎産ごぼうをPR!

JA佐波伊勢崎産ごぼうの着荷調査

- 期日：7月14日(金)
- 場所：長印市川青果(株)
- 内容：JA佐波伊勢崎産ごぼうの評価等の聞き取り

■ H28年都中央入荷量は3位!

JA佐波伊勢崎産のごぼうが出荷ピークを迎えることから、主な出荷先である長印市川青果(株)でごぼうの着荷状況を調査し担当者から評価を伺いました。

H28年のごぼう都中央入荷量は、青森県が1位(占有率49%)、茨城県が2位(同12%)、群馬県が3位で10%を占めています。青森県のごぼうは秋～冬にかけて収穫され、冷蔵庫で保管しほぼ通年出荷されています。群馬県は秋まきごぼうが多く7月が入荷ピークとなっています。

JA全農ぐんまの青果物取扱実績によるとH28年度の群馬県ごぼう出荷量はJA佐波伊勢崎が最も多く、県全体の62%を占めています。

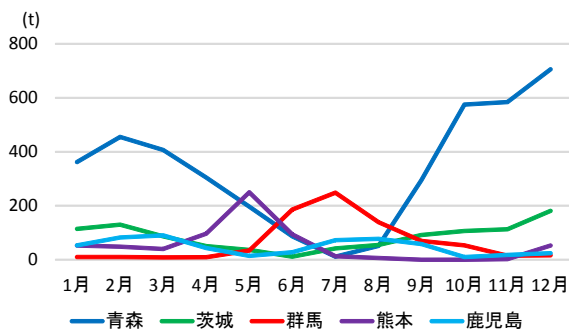
■ 群馬県産夏ごぼうの評価は良好!

JA佐波伊勢崎では、ごぼうの新たな出荷形態として6月28日からFG袋に入れて出荷を始めました。泥付きごぼうは量販店が無地の袋に入れることが多いですが、JA佐波伊勢崎でFG袋に入れることで多少労力やコストはかかりますが、袋に「統一ロゴマーク」を入れることで消費者まで群馬県産であることをPRできるメリットがあります。

市場の方にJA佐波伊勢崎産ごぼうの評価を伺ったところ、「この時期は、青森県産がほぼなくなり、群馬県産が8割、茨城県産が2割となっている。冷蔵の青森県産より、収穫したての群馬県産の方が肉質が柔らかく香りが良いため市場関係者の評価は高い。今年は群馬県産が干ばつ等で生育がやや遅れ、6月は青森県産の引き合いが強まったが、現状、生育も回復し群馬県産が主力となっている。もともと暑い時期の火を使う野菜(じゃがいもやごぼう等)は売れ行きが鈍くなるので、この時期でも食べたくなるようなレシピや簡単な下ごしらえの方法をリーフレット等で積極的にPRすればさらに群馬県産夏ごぼうの消費が伸びるのではないか。」とコメントしていました。



JA佐波伊勢崎産ごぼうの様子



H28年ごぼうの都中央入荷量(月別・産地別)



統一ロゴマーク入りで群馬県産をPR